

遊びを通し病気の子の不安緩和

HPSは、遊びを通して子どもたちが病気を理解する手助けをし、治療への不安を軽減する医療専門職。日本では同大短期大学の松平千佳准教授（まが）がイギリスから取り入れ、二〇〇七年に養成講座を始めた。現在は年間二百時間以上の講座を受けた医師や看護師、歯科衛生士ら百七十人が全国で活躍する。

催しでは現役のHPSらが講師を務め、小児患者に人気の遊びを紹介。血液採取や家族からの差し入れなど入院から退院までの出来事を書き込む「ごろく作り」や、絵の具を混ぜたシャボン玉液を「ぶく」と泡立たせて紙に写し取る遊びなどを体験した。

松平准教授は「医療が高度化し、放射線治療など体への負担が大きい治療も増えている。子どもたちを支えるHPSがもっと増えてほしい」と役割の重要性を語った。

静岡で「専門職」学ぶ催し



絵の具を混ぜたシャボン玉液を使った遊びを楽しむ参加者ら＝静岡市駿河区の県立大短期大学部で

「入院生活すごろく」など作製